

### ○ 花き市場と共催で初の「食肉・花き市場まつり」を開催—名古屋市南部市場

【名古屋発】食肉や卸売市場の機能や役割について地域の住民の理解を深め、市場を身近に感じてもらうと、名古屋市中央卸売市場南部市場と愛知名港花き地方卸売市場が共催し、「食肉・花き市場まつり2010」が24日、愛知名港花き地方卸売市場で開催され、およそ4,000人が来場した。南部市場が07年の2月に、花き市場が今年4月に同市場隣接地に開場していることから、食肉・花き市場まつり実行委員会(会長・金城直司=名古屋食肉市場社長)が主催者となり初開催した。

金城同委員会会長がまつりの開会宣言をしたあと、同委員の名古屋食肉公社の竹中一男理事長や南部市場の芝康夫場長らによるオープンセレモニーで開会。試食コーナーでは、国産食肉や市場についてのアンケートに答えた来場者には、都城和牛と愛知県産の豚肉の肩ロースが焼肉にして振る舞われた。午前11時と午後1時15分の2回でそれぞれ約1,000人分が用意され、長い行列ができた。

また南部市場テナント協議会により食肉の即売会も行われ、△黒毛和牛肩ロース(270g、1,500円)△



ロールステーキ(80g×2枚、500円)△和牛手造りハンバーグ(4個、500円)、国産牛串(4本、500円)△同ステーキ(2枚160g、500円)△同肩ロース薄切り・バラ(各250g、1,000円)△同切り落とし(350g、1,000円)などが販売された。さらに南部市場コーナーでは市場紹介やPRパンフを配布したほか、クイズに答えれば、景品が当たる輪投げに参加できるイベントも実施。このほか、都城農協による農産物の即売のほか、花のせりやフラワーアレンジメントなども行われ、終日賑わった。

### ○ 石垣牛6頭も加えて第4回おきなわ和牛販売促進会開催—ミートコンパニオン

ミートコンパニオンとJA沖縄共催による「第4回おきなわ和牛販売促進会」が23日、埼玉県和光市のアグリズ・ワンで開催され、予定頭数48頭を完売した。同販売促進会は、沖縄の高品質な牛肉を広く知らしめ、再生産可能で活力ある生産基地を構築するためには、首都圏での販売を行うことで消費者のニーズを把握し、「おきなわ和牛」の認知活動が不可欠であるとの趣旨で行われているもの。今回初めて、2008年に地域認証を取得した石垣牛(6頭)も展示即売された。



販売促進会には27社・40名の購買者が参加して行われ、最優秀賞牛(JA宣野座肥育センター、去勢A5、枝肉キロ単価2,900円)はニイチクが買い受け、優秀賞牛3頭は、西島畜産、全農ミートフーズ、ハヤオが、石垣牛賞(JA八重山肥育センター、去勢A4、2,500円)はニイチクが買い受けた。

開催に当たって、ミートコンパニオンの阿部昌史社長(=写真⑤)は、「産地沖縄と関東の消費地を結びつける役割を担いたい。今回は4回目となるが、沖縄和牛の認知度は高まり、毎年購買者が増えている。プロの目でしっかりと沖縄和牛を見定めてもらいたい」と語り、JA沖縄の長濱哲夫常務理事も、「沖縄と石垣の牛は良質な牧草で育てている純粋な沖縄牛として本土で販売していきたい」と述べ、ともに沖縄和牛の首都圏での販売強化の意向を示した。



なお、石垣牛の昨年の出荷は550頭だったが、今年は600頭、来年は700頭の出荷が予定されている。うち地元での消費は450頭程度であるため、来年以降は150頭以上の牛を県外に出荷できる見通しという。来年のおきなわ和牛販売促進会は、沖縄での開催も検討されている。